

コラム 覇者の驕り

計量分析ユニット 森田裕二

WEC (World Energy Council) 主催の第 21 回世界エネルギー会議が本年 9 月、カナダのモントリオールで開催された。この会議は 3 年に一度行われ、世界各国から多数の政府関係者やエネルギー関連企業の首脳が集まることで知られている。前回は 2007 年 11 月にイタリアのローマで開催されたが、機会を得てこの会議に出席した時の話である。

会場となったのはローマ郊外にある国際会議場で、初日の 11 日はカマボコ型のメインホールで夕刻の 18 時から開会式が行われた。さすがに警備も厳重で、参加者は写真入のカードを登録記録と照合したうえで金属探知機のゲートをくぐらねばならず、手荷物も中を調べるといふものものしきであった。

着席して開催を待っていると、警備の警官がしきりに上を見上げ始めた。高い天井の暗がりの中で、複数人間が動いているのが見える。屋根を破って侵入したか、開催前から潜んでいたのかは明らかではないが、警備が破られたのは間違いない。テロリストの可能性もあり、直ちにセレモニーは中止されるものと避難の指示を待った。

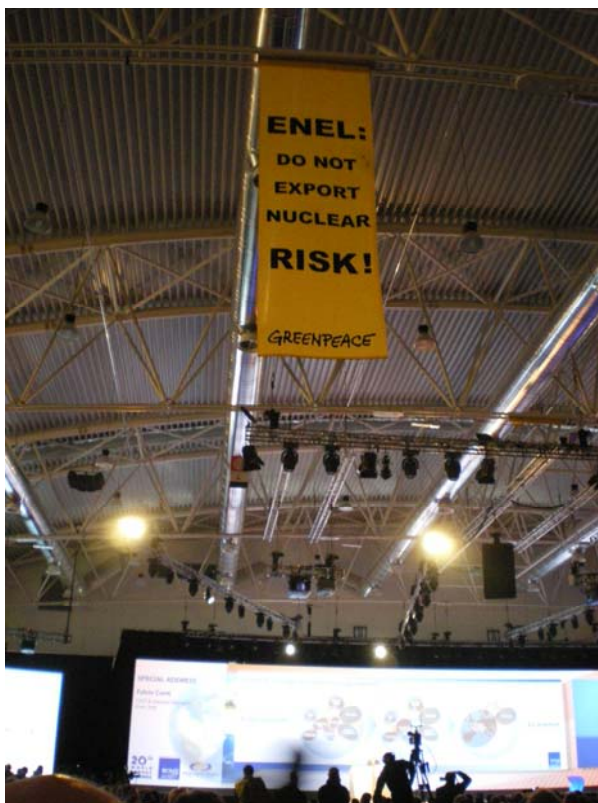
ところが驚いたことに、まるで何事もないかの如く開会式が開始された。壇上ではチック・テスト大会組織委員会会長、ロマーノ・プロディ首相や WEC のアンドレ・カイエ会長が次々と挨拶を行ない、頭上では侵入者が天井の梁を伝って次第に中央の方に移動して来る。皆が壇上と天井を交互に見詰める中、侵入者は最後に天井の梁から原発反対の垂れ幕を吊り下げた。



グリーンピースとおぼしき 2 人の侵入者は騒ぐでもなくそのままロープにぶら下がって

静止しており、どうやら開会式終了後に下に下りて逮捕される覚悟らしい。参加者に危害を加えないというグリーンピースからの通告があったか否かは定かではないが、仮にテロリストであった場合にはどうするつもりなのか、参加者の安全をどう考えているのか、釈然とせぬまま会場を後にした。

翌日から開始された本会議は、相変わらず厳重な警備の中で何とか平穏に過ぎた。大会最終日の 11 月 15 日、イタリア ENEL 社のフルヴィオ・コンティ会長の特別講演が予定されていた。着席して待っていると、グリーンピースと書いた黄色のジャケットを着た長身の人物が両脇を警官に固められて入ってきた。別に騒ぎ立てる様子もなく、大人しく着席して講演が始まるのを待っている。ところが、スピーチ開始の直前になって、今度は天井から垂れ幕が下がってきた。天井の梁に隠しておいた装置を男が無線で操作したらしい。今度ばかりは主催者側があわてて休憩を宣言、全員会場の外に追い出され、クレーン車を呼んで垂れ幕を撤去する騒ぎとなった。男に尋ねたところ、開催の 2 日前に 2 つ装置を仕掛けたとのことで、1 つが電池切れで作動しなかったと悔しそうに話した。警備の側がチェックを怠ったのは明らかであった。



夕刻になって、閉会式のセレモニーが行われ、何とか無事に 5 日間の幕が下りた。ホッとして主催者の招待によるビュッフェ形式の夕食会に向かった。会場に入った途端に目にしたのは、既に食事を終え、ワインを片手に談笑する警備陣の姿であった。食事後にゲートに向かうと、そこは既に明かりが消され、開け放たれて無人となっていた。会場内には

未だ人が居るのに、である。ああ、この国は潰れる、と思ったときにふと思い出したのが本稿の「覇者の驕り」という言葉である。故デイヴィッド・ハルバースタムが 1986 年に著した「The Reckoning」の邦題であり、原題は「報い」を意味している。かつては覇者であった米国の自動車企業の凋落を描いた内容は本稿とは無関係であるが、この言葉がその時のイタリアの印象を上手く表現しているように思った次第である。

その後、程なくしてイタリアは、財政が悪化した 5 カ国の 1 つとして PIIGS (Portugal, Italy, Ireland, Greece, Spain) と称されるようになった。これが「驕り」の結果であると言うつもりはないが、会議で見た警備陣の職業意識の希薄さは、結果として国の衰退につながっているようにも思う。

翻って我が国はどうか、APEC 首脳会議の開催を前にして、テロ対策情報が流出するといった規律の緩みを見るにつけ、我が国もイタリアと同じ轍を踏むのではないかとの懸念が深まる。金銭スキャンダルの指摘を受けた政治家が平然と首相に立候補するところなど、中身は違うが同じくスキャンダルにまみれたベルルスコーニ首相と似ていなくもない。2 位ではダメなのかと問う姿に、我が国を世界の覇者たらしめんとする気概は認められない。PIIGS に Japan を加えたジパングス (JIIPANGS、Japan Italy Ireland Portugal and Greece Spain) とならぬことを祈る毎日である。

以上

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp